

地球惑星科学分野におけるソーシャルメディア利用の類型化

Classification of the usage of social media in the Geoscience field

*伊藤 昌毅¹*Masaki Ito¹

1. 東京大学生産技術研究所

1. Institute of Industrial Science, the University of Tokyo

日本地球惑星科学連合における「ソーシャルメディア」を題材としたセッションは、2011年から開催しており、本年度で6回目となる。2015年までに口頭発表、ポスター発表をあわせて50件の発表があったが、ここでは、それを独自に8種類に分類した。一番多かったのが「専門家からのアウトリーチ」、すなわち専門家の知見や地域の地質などの情報をソーシャルメディアを通して発信する試みに関する発表であり、18件あった。次が「専門家コミュニティの活性化」に関する発表であり、学問分野を超えて専門家同士が交流する場としてのソーシャルメディアを報告する発表が8件あった。続いて、ジオパーク運営や共同研究グループなどにおける「チーム内情報共有・コミュニケーション」に関する発表が6件、ソーシャルメディアをセンサや通信手段として用い、地学的なデータ収集を目指す「ソーシャルメディアによるセンシング」に関する発表が5件あった。また、防災関連情報を入手する手段としてのソーシャルメディアを論じた「防災」、主に一般の人がソーシャルメディアによって交流や情報交換をする「一般コミュニティの支援」、教育の場での指導やコミュニケーション手段としてのソーシャルメディアを論じた「教育手法・実践」がそれぞれ3件あった。

ソーシャルメディアによって可能になった情報の流れは、専門家から一般へと一方的に向かうだけでなく、異分野の専門家同士の交流を促したり、一般の人同士が専門的な話題を入口に交流する機会を作ったり、またソーシャルメディアそのものをセンサとして利用したりなど、様々なものがある。一般的なソーシャルメディアも、2011年はTwitterが主流だったが、Facebookの利用が増えたり、LINEのようなクローズドなコミュニケーション手段が普及したりなど、変化が大きい。現在のところ、ソーシャルメディアの利用方法に時系列での変化は見られないが、今後のソーシャルメディアの進化や変化が、地球惑星科学分野におけるソーシャルメディア利用手法にどのようなインパクトがあり、地球惑星科学分野の発展にどのように寄与するか、継続的な分析が必要である。

キーワード：ソーシャルメディア、利用方法分類、地球惑星科学分野

Keywords: Social Media, Type of the Usage, Geoscience field

データの個数 / 分類 行ラベル	列ラベル					総計
	2011	2012	2013	2014	2015	
専門家からのアウトリーチ	3	5	6	1	3	18
研究者コミュニティの活性化	3	3		1	1	8
チーム内情報共有・コミュニケーション	2		1	2	1	6
ソーシャルメディアによるセンシング	1	1	1	1	1	5
その他	1			3		4
一般コミュニティの支援			1	2		3
防災	2	1				3
教育手法・実践	1	1		1		3
総計	13	11	9	11	6	50